

医師 になる

2025

The future is yours.



目

次

● ころろざし育成セミナー参加の皆さんへ	1
● 病院長からのメッセージ	2
浜松医科大学医学部附属病院	病院長 竹内 裕也 先生
順天堂大学医学部附属静岡病院	院長 佐藤 浩一 先生
静岡医療センター	院長 岡崎 貴裕 先生
静岡県立静岡がんセンター	病院長 小野 裕之 先生
沼津市立病院	病院長 伊藤 浩嗣 先生
富士市立中央病院	院長 児島 章 先生
静岡市立清水病院	病院長 上牧 務 先生
静岡県立こども病院	院長 坂本喜三郎 先生
静岡県立総合病院	院長 井上 達秀 先生
静岡県立ころろの医療センター	院長 大橋 裕 先生
藤枝市立総合病院	院長 中村 利夫 先生
島田市立総合医療センター	院長 和田 英俊 先生
市立御前崎総合病院	病院長 鈴木 基裕 先生
中東遠総合医療センター	企業長兼院長 宮地 正彦 先生
磐田市立総合病院	病院長 山崎 薫 先生
浜松ろうさい病院	院長 江川 裕人 先生
浜松医療センター	院長 海野 直樹 先生
総合病院 聖隷三方原病院	病院長 山本 貴道 先生
佐久間病院	病院長 三枝 智宏 先生
● 医師になるための道・医師としての道	21
● 我が国と静岡県の医療の現状	22
● 静岡県で活躍したいみなさんへの支援	24
● 本小冊子を読んで	25



こころざし育成セミナー参加の皆さんへ

この小冊子を手にとっていただいてありがとう！

医療は「衣・食・住」と同じくらい、私たちの生活に欠かせない大切なものです。人が安心して暮らすために、昔から人々の生活に深く関わってきました。今では日本の平均寿命が84歳を超えて、医療の重要性はますます高まっています。

皆さんにもなじみのある鎌倉時代の随筆『徒然草』には、現代にも通じる大切な考えが数多く記されています。第123段には、医療の価値について述べられた一節がありますので、ぜひ目を通してみてください。

この小冊子は、皆さんが医師という仕事をより深く理解し、将来その職業に就いて自分を育ててくれた地域に貢献したいという気持ちを持つきっかけになればと思い作成しました。

ではまず、静岡県内の19病院でご活躍されている先生方から皆さんへのメッセージをご紹介します。





浜松医科大学医学部附属病院

病院長 竹内 裕也 先生からのメッセージ

もしあなたのご家族が風邪をひいて熱を出したとしましょう。あなたはきっと心配しますよね。もしかしたらご家族のためにご飯を作ったり、薬局で薬を買ってきたりするかもしれません。またたとえば、バスや電車の中で具合の悪そうなお年寄りがいたとします。その時、あなたはきっと何とかしてあげたいと思いますよね。

もし周りに困っている人がいたら何とかして助けてあげたいと思う、これは人間の本能の1つかもしれません。しかし、様々な体や心の不調（病気やけが）を治すためには専門的な知識と豊富な経験が必要となります。医師という仕事は科学的知識や技術を駆使しながら、病気やけがで苦しんでおられる患者さんを癒し、命を守る大切な職業です。

医学の進歩は日進月歩であり、患者さんに最新の医療を提供するためには医師になってからも生涯学び続けることが必要です。時には苦勞もありますが、一人ひとりの患者さんと向き合うなかで、多くのことを学び、自分自身も成長することができます。私は外科医ですが、自らの手で難しい手術を成功させ、患者さんの病気を治すことができた時の喜びは何ものにも代えがたく、患者さんからの「ありがとう」の一言には大きなやりがいを感じます。

医師には病院で働く以外にも、研究や医療行政、国際医療など活躍の場がたくさんあります。人の役に立ちたい、誰かのために自分を磨き挑戦し続けたいという気持ちがあるなら、医学という道はとても魅力的な選択肢です。今の努力が未来の誰かの命を救う力になります。

ぜひ、医師を目指すことを前向きに考えてみてください！



病院長 竹内 裕也



順天堂大学医学部附属静岡病院

院長 佐藤 浩一 先生 からのメッセージ

医師になること

医師を目指す道は極めて険しく、医師になってからも不断の努力が必要とされます。それではなぜ医師を志すのでしょうか？

高校3年間は将来の進路を決める大切な時期であります。人生は一度きりの貴重なものであり、どんな苦勞にも努力を惜しまず、充実した仕事に就きたいと考える方は多いと思います。「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり」志への強い思いと、それを成さんと追い求める姿勢が現れている論語に示された孔子の言葉です。医師になり、医道を全うするという強い意志があれば道は開けてきます。

それではどのような人が医師に向いているのでしょうか？学業成績の良し悪しはあまり重要な要素ではありません。「名医たらずとも良医たれ」医療を行っていく上で常に心の中にあり続ける言葉です。この言葉には、名声ばかりを求めるのではなく、患者の立場で考える医療を提供し、患者を一人の人間として見て病気を治す存在でありなさいという意味が込められています。医師には患者一人一人の生命を尊重し、人間としての尊厳と権利を守ることが求められています。利己的な性格は医師に向いていません。利他的でいられること、すなわち自分を犠牲にして他人の幸福・利益のために尽くすことが良医になれる必要条件です。

現在、本邦では医師不足が大きな問題となっており、OECD加盟国の医師数の平均と比べると日本の医師数は12万人も不足しています。不断前進の理念（現状に満足せず常に高い目標を目指し努力を続ける姿勢）と、利他的な精神をお持ちの方はぜひ医師を目指して下さい。



院長 佐藤 浩一



独立行政法人 国立病院機構

静岡医療センター

院長 岡崎 貴裕 先生からのメッセージ

医師を志す皆さんへ

医師にはさまざまな姿があります。

- 1) 地域医療を支える病院で仕事をする医師
- 2) より患者に近い場所で地域医療を実践する医師（開業、診療所）
- 3) 国や地方自治体における公衆衛生医
- 4) 研究医（基礎医学、臨床医学、社会医学）
- 5) 専門診療科を極めていく専門医

これらのどれもが重要であり、そしてどの道を目指そうとも、自分が納得できるプロフェッショナルになるためには相応の努力とその努力を継続する強い意志が必要です。これは、医学医療だけではなく全ての職業に共通しています。

私は医師の仕事しかできないという年齢になりました。しかしながら、それで人という社会の一部を支えていく気持ちは今も変わりません。

努力の継続を楽しめる人になりませんか？



院長 岡崎 貴裕



静岡県立静岡がんセンター

病院長 小野 裕之 先生 からのメッセージ

医師を目指す皆さんへ

医学部進学を志望する理由はさまざまだと思います。

大学の同級生には「病める人々を治したい！」という高尚な気持ちで医師という職業を目指した者もありました。でも一方では「親が医者だから」とか「医学部に入れる成績だったから」というものもいるのです。

私はといえば「自分は9時5時勤務の生活は向いてない、医者なら自由に動けるかな」というあまり褒められない理由でした。そんな私でしたが卒業して消化器内科医となり、人体の不思議さ、精妙さ、そして複雑さに圧倒されながらも惹かれ、自分の診療が目の前の患者さんに直接影響することの重大さに恐れおののきながらも、強い魅力を感じて飽くことはありませんでした。臨床医は患者さんに学び、治った患者さんとともに喜び、ときに治せぬ自分に苦しむ泥臭い職業です。でもまた生まれ変わっても臨床医になりたいと今は思います（でも次は外科医になりたいな）。

そんな臨床医を目指すもよし、一方で医者にはいろいろな道があります。遺伝子工学や生理学、生化学、分子生物学などの基礎研究者として生きる者、保健所など公衆衛生に従事する者、国の医療行政を変えてやると厚労省の技官となる者、日頃皆さんがイメージする臨床医以外にもさまざまな選択肢があります。

静岡がんセンターも国公私立、さまざまな大学からスタッフが集まっています。

いつか、皆さんと「静がん」で一緒に働けたらすてきですね。



病院長 小野 裕之



沼津市立病院

病院長 伊藤 浩嗣 先生 からのメッセージ

医師を目指す皆さんへ

皆さんは、なぜ医師を志すことを考えたのでしょうか。

皆さんが目指す医師とは、患者さんの生活や人生のみならず、そのご家族を含めた周囲の方々にも多くの影響を与える「やりがい」がある一方、責任ある職業になります。

現実には、皆さんが思い描いている理想とは異なることも多い職業です。

しかし、この冊子を手にした皆さんには「医師」という目標に向かって熱い気持ちと高い志があることでしょう。目標を見失わず、夢に向かって邁進して下さい。応援しています。

当院は、静岡県東部地域の基幹病院として、様々な患者さんを受け入れています。静岡県東部は、慢性的医師不足であり、人口減少や少子高齢化なども相まって、地域医療は縮小していく可能性があります。医師の働き方改革も始まり、医療従事者を取り巻く環境が大きく変化するなか、是非とも、皆さんの力が必要です。

近い将来、皆さんと共に仕事ができることを楽しみにしています。



病院長 伊藤 浩嗣



富士市立中央病院

院長 児島 章 先生からのメッセージ

医師になるためには、まず大学医学部に入学して6年間の修学ののち、医師国家試験を突破し、医療行為をおこなう国家資格を得ることから始まります。しかし、ここがゴールではありません。さらに生涯にわたり技術を身につけ、見聞を広める努力を続けなければならない、医師の道は決して容易なものではありません。しかし、その先には人の苦痛を癒し、命を救い、人生を支えるという偉大な使命があります。皆さんが医学を学ぶ日々は、膨大な知識を習得し、技術を磨くだけでなく、人としての自己の成長を促す時間としても大切です。患者の苦しみに共感し、その不安を和らげることも医師としての重要な役割であるからです。

医師の仕事は「診療」に留まりません。後進の育成のための「教育」や医学上の疑問点を解決するための「研究」も大切な仕事となります。医師になってからも、人生の多くの時間をこれらの仕事に費やすことになります。しかし「医師になる」と決意したあなたの情熱と努力は、必ず多くの人々への喜びと希望につながることでしょう。医師になるまでの道に、そしてそのあとからさらに歩み続けることに誇りを持ち、一步一步前進していただきたいと思います。



院長 児島 章



静岡市立清水病院

病院長 上牧 務 先生からのメッセージ

これから医師を目指す皆さんへ

私は長い間、研修医を指導する立場にいます。毎年4月、医学部を卒業したての医師が、病院という実社会へ旅立つ姿を目の当たりにしています。その姿は、前途洋々というより不安満載という頼りない姿です。上級医と一緒に歩く姿は、よちよち歩きのひな鳥が親鳥についていくような光景です。しかし、ひと月が経ち、三月が経ち、夏休みが終わるところになると一変します。研修医の顔がひきしまってきます。上級医との会話もスムーズに感じられます。救急外来へ走っていく姿はテレビドラマの主人公のようです。

しかし残念なことに必ずしもすべての研修医がこのような姿を見せてくれるわけではありません。私はこの理由を医学生医師になる目的が変化していることが原因にあると考えています。

たとえば皆さんに「どうして医学部を目指すのですか」と問うと「もちろん、医師になるためです」と答えるでしょう。「では医師になって何をしたいのですか」という問いに対し予想外の答えが返ってくることがあります。「仕事も大切だが自分の時間も大切にしたい」「体力がないのできつい科にはいきたくない」「夜勤くのは苦手なので当直はなるべくやりたくない」など。時代の変化、価値観の違いといえそうですが何か割り切れない気持ちになります。

「医学の発展に結びつくような研究をしたい」「医師の少ない地域で医療を支えたい」「厚生労働省に入省して保健行政に携わりたい」など医学部をめざす皆さんのうち一人でも多くの方がこのような熱い思いを持ってほしいと思っています。さらに静岡県の医療を支えてくれる医師として勤務してくれることを望んでいます。



病院長 上牧 務



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

静岡県立こども病院

院長 坂本 喜三郎 先生 からのメッセージ

医師になる。

その“こころざし”を持ち、“こども”というキーワードで繋がっている方がこのページを読んでいることと思います。

“ようこそ！小児の総合病院：静岡県立こども病院へ”

ここは、小児科医が半分、小児科医ではないけれども小児に対する医療（ほとんどの外科系の科と麻酔科、放射線科、病理科など）に携わる医師が半分で構成されている、静岡県小児医療“最後の砦”の役割を担っている病院です。

何を隠そう、私自身も小児科医ではありません。心臓血管外科医として先天性心疾患に対する外科治療を専門にしております。

『なぜ、こどもの医療にハマったのか？』ですって？

なぜって・・・こどもは、未来そのものだからです。

こどもが元気になれば、親が元気になります。こどもが元気になれば、静岡が、日本が元気になります。病気と闘っている子が元気になれば治療に関わった人は10倍元気になる、そのことを経験したからです。

医師を目指している諸君。医師になるにはここからもう一踏ん張りが必要です。が、このセミナーに参加している君たちならきっとできます。数年後、一緒に仕事をする日が来るのを願ってエールを送ります。

頑張れ、この国の未来の医療を担う未来達！



院長 坂本 喜三郎



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

静岡県立総合病院

院長 井上 達秀 先生 からのメッセージ

四国の田舎の県立高校に通っていた私は、「医師とは」「医学部とは」に関する情報が得られず具体的なイメージがわからないまま医学部に入学していました。そのような状況でも医師は人々の健康維持に直接関与し社会貢献できる職業であると理解していました。

したがって、私は医学部入学後に「医師とは」について考えるようになりました。ともに考えて行動する友人を得て、山登り等で体を鍛えなおし、哲学、物理をともに深く学習することで「人間」「生命」について理解を深めました。幸いなことに志の高い友に恵まれ幸運でした。

このように、友との出会い、師との出会い、文献との出会いにより、世界は広がり医師になるという意識は高まっていきました。さらに医師を育てるのに最も大きな影響を与えるのは、患者さんとの出会いです。医師として臨床の現場に立つ限り、これは一生続きます。基礎研究者になったとしても常に患者さんの顔が浮かぶかと思います。

超高齢化社会を迎えた日本では、ライフステージ別の最適な医療提供体制が構築されてきています。遺伝因子、環境因子の解析が飛躍的に進歩して、疾患の発症そのものを抑制する先制医療が発達してきています。さらに、遺伝子治療が実用化されるなど、医学の進歩には目を見張るものがあります。医療界に志の高い若者が増えることを期待します。



院長 井上 達秀



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

静岡県立こころの医療センター

院長 大橋 裕 先生 からのメッセージ

医師を目指す皆さんへ ～こころを診るということ～

この冊子を手になさった皆さんは、医師という職業に少なからず興味を抱かれていますのだと思います。今日は、私が専攻する精神医学をアピールさせて下さい。

こころの在り処とは？言うまでもなく、それは heart（胸の内）でなく brain（脳の活動）です。ヒトの脳は百数十億個の神経細胞からなり、神経細胞同士の複雑なネットワークが思考や感情を生み出して伝えています。精神医学とは脳科学なのです。うつ病、パニック障害、PTSDといったメンタル不調の発病メカニズムを探してこれと対峙するという「未知の領域である脳を知り、脳を守る」仕事は刺激的な魅力に溢れています。

一方で、精神疾患は慢性の経過をとることが殆どで、精神科医は時として、患者さんの人生も治療対象にすることを求められます。社会的スティグマにもなり得る精神疾患を挟んで患者さんに寄り添い続けること、それは、優しい献身です。

精神科医という職業は、このように相反する側面を持っています。「もっと知ってみたい」とそそられませんか？探求心と人間愛を持ち合わせた若者が私たちの仲間になって下さることをお待ちしております。



院長 大橋 裕



藤枝市立総合病院

院長 中村 利夫 先生 からのメッセージ

医師を志す高校生の皆さんへ

医師になるため医学部を目指して頑張っている高校生の皆さん、受験勉強ご苦労様です。独り夜中まで机に向かって勉強している時、ふと「自分は医師に向いているのだろうか、医師になる資質があるのだろうか」と自問することはありますか。

医学部を目指すきっかけは人それぞれだと思います。自分の身近で病気で苦しむ人の役に立ちたいと考えた人、将来に向け安定した人生を過ごすため医師の資格を取ろうと考えた人、あるいは医師になりたいとは考えていなかったけれど、自分の可能性を試すため難関の医学部受験を選んだ人もいるかもしれません。きっかけが何であれ医学部に入れば後は卒業して国家試験に合格するまで、ひたすら講義に出て実習を受け懸命に努力しなければなりません。実は医師になった後もやっぱり専門医資格や学位などを取得するためずっと勉強です。つくづく医師は一生勉強していく職業なのだと思います。だから医師として大切な資質のひとつをあげるとすれば、向上心を持ちつづけ、一生勉強することができることだと思います。皆さん迷わず受験勉強を頑張ってください。

高校生の皆さんが将来目指す医師像とはどんなものでしょうか。病院で患者を診察したり手術する「臨床医」でしょうか。それとも、まだ発見されていない病気の原因を解明したり新しい治療法の開発に携わる「研究医」でしょうか。どちらを選んだとしても大切なのは病気で苦しむ人たちの役に立ちたいという気持ち、他者を思いやる気持ちだと思います。その気持ちがやりがいにつながり、生涯にわたり学習する意欲を持ちつづけ、最後までやり抜く力が生まれるのだと思います。



院長 中村 利夫



島田市立総合医療センター

院長 和田 英俊 先生 からのメッセージ

医師を目指す高校生の皆さんへ

皆さんが医師という職業に興味を持ってくださったことを、大変うれしく思います。

医師とは、単に医学的な知識や技術によって患者さんを治療するだけの職業ではありません。ときには患者さんの心に寄り添い、その人生にまで寄り添う存在となることがあります。それは大きな責任を伴うものですが、何ものにも代えがたい、深いやりがいに満ちた仕事です。

医師になるまでの道のりは決して平坦ではありません。大学受験、医学部での勉強、国家試験、そして臨床現場での実践など、学ぶべきことは多く、精神的にも肉体的にも困難に直面することもあるでしょう。しかし、「医師になる」という強い意志と、それを支える日々の努力を忘れなければ、必ず乗り越えることができるはずです。

医学は日々進歩しており、医師は一生をかけて学び続ける職業です。そして、何より大切なのは、「人のためになりたい」という初心を持ち続けることです。

皆さんの情熱が、静岡県の医療の未来を明るく照らしてくれることを信じています。将来、静岡県の医療を支える仲間として、皆さんとお会いできる日を心から楽しみにしています。



院長 和田 英俊



市立御前崎総合病院

病院長 鈴木 基裕 先生 からのメッセージ

皆さんが今夢中なことは何ですか？

皆さんが夢中なことは、勉強？または部活や恋に夢中！という方もいるでしょう。医師を志す皆さんは、勉学に励むことも大事ですが、趣味や社会活動、友人との交流など様々な経験を通じて「人としての経験値」を高めてもらいたいと思います。

私が医師になってから数多くの医師と仕事をしてきました。「この先生は素晴らしいな」と思う方の共通点は、医学的な知識だけでなく人間力の高さであると思います。これは、独善的でなく相手のことを考えて対応ができる能力の高さと言えます。そんな先生にお話を伺うと仕事以外の趣味を大事にしていたり、様々な社会活動に参加している方が多いようです。人生における経験という引き出しの多さが人の器を広げ将来の皆さんの財産となるはずです。小さな頃に言われたことがありますか？「よく学びよく遊べ！」これは真実であり人を相手にする職業の医師にとって金言だと最近実感しています。

当院は、地の利を生かしてマリンスポーツや釣りを楽しむ職員が多数在籍し、院内の中庭でアニマルセラピーを兼ねてヤギによる除草活動に取り組み患者さんや職員の癒しにもなっています。

医学を志す学生の皆さん、たくさん学び、よく遊び、人間力を育んでください。いつの日か皆さんと一緒に御前崎で地域医療を支えることができることを望んでいます。



病院長 鈴木 基裕



掛川市・袋井市病院企業団立

中東遠総合医療センター

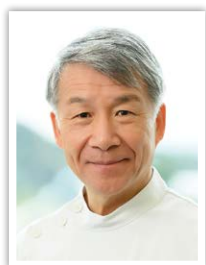
企業長兼院長 宮地 正彦 先生 からのメッセージ

「医師になる」ことは、将来努力し続ける人、進歩し続ける人になることです。また夢を、理想を追い求める人になることです。困難な問題に立ち向かう人になることです。目標を一つ達成すると、次の目標が見えてきて、また頑張ろうと思い、これが生涯続く職業だと思います。常に人のため、自分のためにいいことをしたいと思い、切磋琢磨することが望まれる、切磋琢磨したくなる職業です。

切磋琢磨するためには、自分一人の努力だけではできません。他者と接することが大切です。手を洗うとき、片手だけではしっかり洗えません。両手で洗うことで、片手だけではなく、もう一方の手もきれいになります。人が成長するためには、他者や問題との絶え間ない接し合いが必要です。私たち医師は患者さん、病気と真摯に向き合うことで、己が鍛えられます。だから、つらいこともあります。頑張ったからといっても、いつもいい結果が得られるわけではありません。つらい思いをし、経験を積み、知識を身に付け、さらなる高みを目指します。患者さんが元気になって微笑みかけてくれる笑顔を見たくて、また勉強して、いい医師になろうと努力したくなります。また感謝されることが新たな活力を生みます。医師として、人として、常に成長を求められる職業だからこそ、大変やりがいがあります。

医師にはさらなる可能性があります。悩める人を直接治療することができない以外に研究し、その結果で多くの人たちを助けることもできます。また医療を知った上でスタートアップし、機器やシステムを開発することでも人々を助けられます。

医師になるための適性はあるのでしょうか。そのような適性はありません。自分になりたいと思い、やり続けたら、適性があったんだと思います。医師の可能性はとても広いです。医師への道に足を踏み出してみませんか。目の前に広がっていることに気付くでしょう、君を惹きつけてやまない可能性が。



企業長兼院長 宮地 正彦



磐田市立総合病院

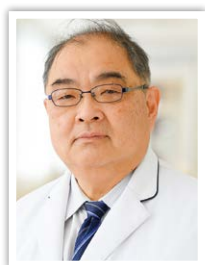
病院長 山崎 薫 先生からのメッセージ

高校生のみなさん、医師をめざそう

2024年の小学6年生を対象にした将来になりたい職業の調査では、第1位は定番のスポーツ選手(8.8%)、第2位が医師(5.3%)で第3位が教員(4.9%)とのこと。高校生を対象にすると第1位は教員(10.2%)、第2位が医師(9.6%)、第3位が看護師(7.6%)だそうで、医師の人気は決して悪くない。医師は社会的意義の高い職業で、人の役に立てるといふ点に強い魅力を感じる人が多いようですが、自分や家族が病気やけがで助けられた経験があると「自分も人を助けたい」と思うこともあります。またテレビドラマや映画、小説などで活躍する医師の姿に憧れることがきっかけになることもあるでしょう。でも医師になるのは簡単じゃない。受験という壁を打破しないといけない。難関であるのは間違いない。でも「難しいからこそ挑戦しよう」「難しいからこそ自分の学力を活かそう」と前向きな気持ちがあれば乗り越えることができますと思います。

静岡県の人口10万人あたりの医師数は全国平均を30名ほど下回っており、そのうえ磐田市立総合病院がある中東遠医療圏は医師少数地域のひとつに指定されています。それでもありがたいことに初期研修医を募集すると定員を大きく上回る応募があります。当院に採用された初期研修医にその理由を聞いてみると、よくある傷病から大学病院へ搬送が必要となる傷病まで多様な救急患者を診療できることが魅力だそうです。救急車搬送を受け付ける医療機関が少ない医師少数地域ならではの経験を研修医の皆さんはプラスに捉えています。

皆さん、医師になって静岡県の医療のために貢献しましょう。



病院長 山崎 薫



独立行政法人 労働者健康安全機構

浜松ろうさい病院

院長 江川 裕人 先生 からのメッセージ

医師を目指す高校生の皆さんへ

医師という職業は、受験最難関の医学部に入学し6年間の座学と実習を経て国家試験に合格し、医師免許を取得した後も認定医・専門医の取得と維持という資格だけでなく生涯にわたって研鑽^{けんさん}を積んでいくことが求められます。これはプロフェッショナルとしてはどの職業においても同じことだと思います。

今、君たちが取り組んでいる受験勉強は医学部入学のためだけに役立つものではありません。まずは課題に向かう集中力と根気を養います。さらに、病気は教科書通りには現れません。目の前の患者さんの様子を深く掘り下げて解決方法を導き出す思考力が必要です。高校生の君達で言えば、数学と物理が掘り下げる思考力を養ってくれます。ただし、公式を当てはめる考え方では役に立ちません。原理・定理から組み立てる訓練が必要です。また、心が柔らかい高校生の時にこそ、多種多様なパーソナリティに寄り添える人間力を養っていただきたい。それには普段の友人との付き合いを大切に、様々なジャンルの読書により心を耕すことが大切です。

今後、日本では高齢化が進み、医師に必要とされるタスクも変化していきます。平成までは臓器・疾患専門医がもてはやされましたが、高齢化が進む社会では単臓器専門医の活躍の場が少なくなっていくます。病気や臓器だけを診るのではなく、人を観ることこそ名医の役目になります。

浜松ろうさい病院の理念である「ヒューマニズムとアカデミズム」は医療者に求められる根本原理です。実はこれは仏教^{ぶつこう}が大切にしている言葉である「慈悲と智慧」です。つまり医師として生涯を研鑽^{けんさん}することは人として最高の高みに上がることです。皆さん、お待ちしております。



院長 江川 裕人



浜松医療センター

院長 海野 直樹 先生 からのメッセージ

医師を志すあなたに贈る言葉

高校生のあなたにとって、「医師」とはどんな存在でしょうか。自分自身の病気やけがのときに診てもらった医師、あるいは家族が世話になった医師の姿から、漠然としたイメージを抱いているかもしれません。テレビドラマや漫画、小説の中の医師像を思い浮かべる人もいるでしょう。

たとえば、難手術を次々と成功させる天才外科医。どんな危険な現場にも駆けつける救命医。誰にも診断できなかった病を見抜く名医。そして、がんや難病で治療の術が尽きた後に、患者の心と痛みに寄り添うホスピス医など。医師の姿は多様で、多彩です。そしてそれは、あなた自身が目指す「医師像」もまた、自由に描けるということを物語っています。

ただひとつ共通しているのは、医師は常に「病める人に寄り添い、共に病と向き合う存在」であるということです。そしてもう一つ、大切なことは「医療はチームで行うもの」だということです。医師だけで成り立つ医療などありません。看護師、薬剤師、技師、事務職員など多くの仲間とともに患者を支えます。

この二つを胸に刻んで歩むあなたは、きっと「良き医師」になれるはずです。どうか、あなたの思い描く理想の医師像を大切に育て、志しを持ち続けてください。心から、応援しています。



院長 海野 直樹



総合病院 聖隷三方原病院

病院長 山本 貴道 先生 からのメッセージ

医学部進学を目指している皆さんは未だ想像がつかないと思いますが、医師の仕事内容は多種多様です。性格によって向き不向きがあるのは当然ですが、医師という職業は自分に合った分野が見つかる可能性が高いと思います。内服治療によって病気を治したい。手術によって病巣を摘出するなど外科治療によって病気を治したい。治療というより、診断の方に重きを置いて診療を行いたい。などなど医学部に行くと多くのことがわかってくるでしょう。

私が学生の頃は、卒業の段階で入局する医局を決めるのが普通だったので、学生実習の間に科の特性をよく観察するようにしていました。今では初期研修の2年間があるので、焦って決める必要は無くなりました。しかし初期研修では学生実習のように全ての診療科を回る訳ではないので、やはり学生の内に自分の将来を何にかけるとか、十分に研究しておくことをお勧めします。

私の場合、家系に医師はおらず、家族が大病で入院しどこかの病院にお世話になったこともありませんでした。よって自分が医師になろうという夢を持つことになったモデルがいた訳ではありません。

高校は静岡県立清水東高校でしたが、クラスに医学部志望が多かったためか、当時の担任がある病院に希望者を連れて行ってくれました。その時にそこに勤めておられた先生に色々質問したのを覚えています。高校3年生の時には「外科医」になろうと決めていました。浜松医大に進学し、学生時代は心臓血管外科医か脳神経外科医になろうと思っていましたが、学生実習で見た脳神経外科の顕微鏡手術で映された脳の映像がとても美しく、これを一生の仕事にしよう決めました。医学部に入った後は何科の医師になるのかという大きな選択が待っています。皆さんが努力を重ねて、この素晴らしい世界に入られるよう期待しています。



病院長 山本 貴道



浜松市国民健康保険

佐久間病院

病院長 三枝 智宏 先生 からのメッセージ

私の勤務する佐久間病院はいわゆるへき地病院です。この冊子への執筆にあたり良い機会だと思って考えてみました。へき地医療のどこが楽しいのでしょうか。

私が佐久間で医療をやっていて楽しいのは、病院の中に留まらず外に出ていけること。病院なので入院・外来患者を診るのですが、医療資源の少ないへき地ではそれに留まらず、附属診療所や無医地区の巡回診療、在宅訪問診療、介護施設での診療、学校医や企業の産業医としての活動、保健師との健康づくり事業など、いろいろな役割で外に出て、豊かな自然の中で季節を感じることができるのです。そしてそこではいろいろな出会いがあります。お家で療養する人や介護・福祉の従事者ばかりでなく、元気なお年寄り、元気な若者とも関わるができます。1日として同じ日はなく多様な日々を過ごしています。

なので、専門を突き詰めて行こうという医師にとっては、専門外の診療を行うことは不安でしょうし、へき地医療はつまらないかもしれません。決して誰もが楽しく感じるものではないでしょう。でも、自然を感じ、地域の人と関わる体験は心のリフレッシュにもつながります。

皆さんも医師になって医療を続ける中で少しでもそんな体験がしたくなったら、短期間でもよいのでへき地医療を経験してみませんか。



病院長 三枝 智宏



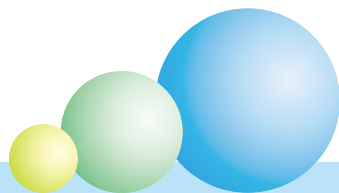
医師になるための道・医師としての道

医師になるには、まず大学の医学科へ入学し、6年間にわたって専門的な知識や技能を修めます。そして、毎年春に行われる医師国家試験に合格し、医師免許を取得することが必要です。

医師免許を取得したら、病院に勤務しながら2年間にわたって初期研修を受けます。この研修では、先輩医師の指導の下で、内科・救急・外科・小児科といった様々な診療科の経験を積みます。医師としての基本的な診療能力を身に付けるとともに、自分の適性に合った将来の進路を決める2年間です。

では「適性に合った進路」とは、どういうことでしょうか。実は医師の活躍の場は、とても広いのです。初期研修を終えると、多くの医師は病院において専門性をさらに高めるための研修を受けます。一方で、患者さんを直接診療しない職場を選択する医師もいます。例えば、大学や研究機関において研究に取り組む医師、保健所などで医療行政を担う医師など様々です。

医師は、自分の適性に合った生き方を選択できます。ただし、その前提として、単に医学の知識や技能だけでなく、高い倫理性と豊かな人間性も身に付けることが求められます。志を定めるにあたって、そのことを是非理解してください。





我が国と静岡県の医療の現状



我が国の平均寿命は、先進国の集まりである OECD（経済協力開発機構）加盟国と比べ長く、このことから日本の医療は世界から高い評価を受けています。その一方で医師の数は OECD 加盟国平均の約 3 分の 2 で、少ないことが分かります。今後、高齢者の人口が増え、それに伴って医療需要は続伸すると予想されています。これに対し、医師数を急激に増やすことは現実的に難しいことです（OECD 加盟国平均まで増やすには、新たに 10 万人以上の医師が必要です）。

	日 本	OECD 平均
平均寿命	84.5 歳	80.6 歳
医 師 数	人口 1,000人あたり2.6 人	人口 1,000人あたり3.7 人

（出典：Health at Glance 2023:OECD INDICATORS）

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことを「健康寿命」と言います。静岡県は、我が国の中でも健康寿命が男女とも上位に位置しています。その一方で、医師数は 2022 年の調査結果によると全国平均の 88%にとどまっています（全国順位 39 位）。

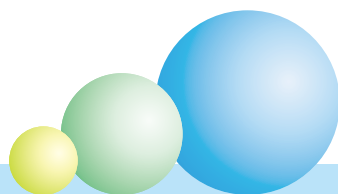
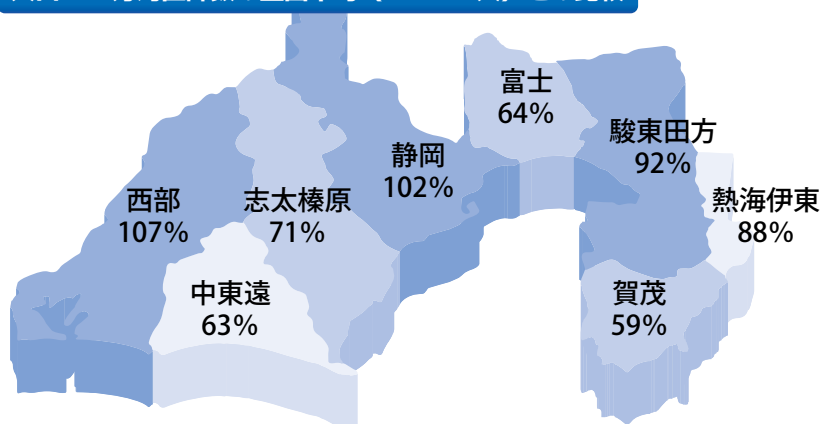
	データ年	静岡県	全国順位（降順）
人口（国勢調査）	2020 年	363 万人	10 位
一人当たりの 県民所得	2021 年	331 万円	4 位
健康寿命	2022 年	男 73.75 歳 女 76.68 歳	男 1 位 女 1 位
人口 10 万人当たりの 医 師 数	2022 年	230.1 人	39 位

ここで県内を二次医療圏別の医師数で比較してみましょう。駿東田方、静岡、西部では全国平均に近い数の医師が従事していますが、賀茂、富士、中東遠においては、全国平均に対し70%未満にとどまっています。このように全体的に医師数が少ないとともに、地域偏在も見られるのが静岡県の特徴です。

安心して暮らせる地域として発展し続けるために、医療は欠かせません。

この冊子を手にとってくださった皆さんが、将来静岡県で医師として活躍することを待ち望んでいます。

人口10万対医師数の全国平均（262.1人）との比較





静岡県で活躍したいみなさんへの支援

将来、医師として静岡県の地域医療に貢献するところざしを持つ皆さんの大学での修学を支援するため、静岡県では奨学金制度を整えています。

静岡県医学修学研修資金制度は、月額 20 万円の資金を修学中の 6 年間受けることができます。貸与された資金は、大学卒業後静岡県内の指定された公的病院等で一定期間勤務することで返済が免除されます。

医学部の修学期間は長く、私立大学では学費も高額になりますが、奨学金制度を上手に利用することで、家計の負担を減らしつつ、医師への道を歩むことができます。

制度の概要（医学科大学生の場合）

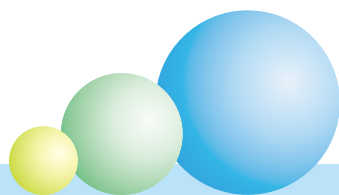
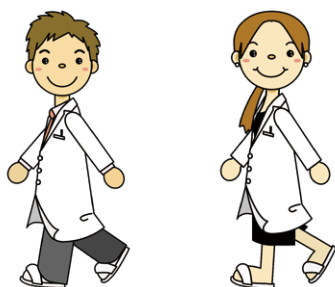
貸 与 期 間	6 年間（医学科の修学年限）
貸 与 額	月額 20 万円（6 年間）⇒ 1,440 万円
返 還 免 除 勤 務 期 間	貸与期間の 1.5 倍の期間 ⇒ 9 年間勤務 ※履行期限 貸与期間の 2 倍に 4 年を加えた期間 ⇒ 16 年間
勤務医療機関	静岡県内の公的医療機関等のうち、 県が指定する医療機関
診療科の指定	なし
出 身 地	限定なし

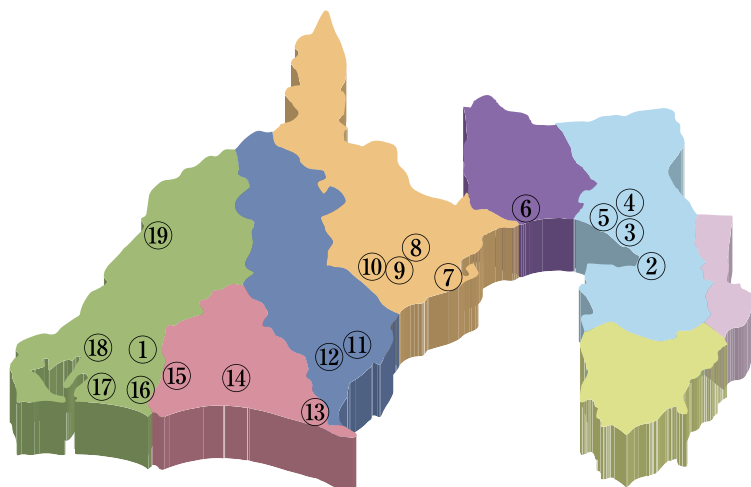


本小冊子を読んで こころざしの原点を記録しよう

病院長のメッセージや県内の医療の現状を読んでどう感じましたか？皆さんが将来を担う医師として学び、活躍していただけたら幸いです。

ここに皆さんのこころざしの原点を記録してください。そして、受験勉強に追われて意志が揺らぎそうになった時には、この小冊子を取り出してください。きっと、自分が目指す人生を歩む勇気を与えてくれると思います。





メッセージ掲載病院一覧

- | | |
|------------------|----------------|
| ① 浜松医科大学医学部附属病院 | ⑪ 藤枝市立総合病院 |
| ② 順天堂大学医学部附属静岡病院 | ⑫ 島田市立総合医療センター |
| ③ 静岡医療センター | ⑬ 市立御前崎総合病院 |
| ④ 静岡県立静岡がんセンター | ⑭ 中東遠総合医療センター |
| ⑤ 沼津市立病院 | ⑮ 磐田市立総合病院 |
| ⑥ 富士市立中央病院 | ⑯ 浜松ろうさい病院 |
| ⑦ 静岡市立清水病院 | ⑰ 浜松医療センター |
| ⑧ 静岡県立こども病院 | ⑱ 総合病院 聖隷三方原病院 |
| ⑨ 静岡県立総合病院 | ⑲ 佐久間病院 |
| ⑩ 静岡県立こころの医療センター | |

令和7年7月発行

編集/発行：国立大学法人 浜松医科大学 地域医療学講座

〒431-3192 浜松市中央区半田山1丁目20番1号 TEL:053-435-2060

静岡県健康福祉部医療局地域医療課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 TEL:054-221-2868



イベント情報などを掲載しています
こころざし育成セミナー、先輩医師からの
アドバイス、地域神大学の紹介など
(ふじのくに地域医療支援センターHP)